

鉄筋コンクリート工事特記仕様書

- Ⅰ 一般事項
1. 本工事は日本建築学会編 建築工事標準仕様書 (JASS 5 鉄筋コンクリート工事) を適用する。
 2. 工事に先立ち工程表と共にコンクリート打設計画書を作成し 監督員の承認を受けること。
 3. 設計図面に基き型枠加工及び組立て図 並びに鉄筋加工及び組立て図を作成し 監督員の承認を受けること。

- Ⅱ コンクリートの種類及び品質
1. コンクリートの種類は普通コンクリートとする。
 2. コンクリートの品質の級は「常用」とし 設計基準強度は下記による。

- Ⅲ 材料の規定
1. セメントは JIS R 5010 (ポルトランドセメント) に規定する普通ポルトランドセメントとする。但し 監督員の承認を受けた場合には 其の他のセメントを使用してもよい。
 2. 粗骨材の最大寸法は 25 以下とする。
 3. 混和材料は JASS 57-40 (コンクリート用表面活性剤の品質規準) に規定する A 型減水剤 または AE 減水剤を使用し 監督員の承認を受けた製品とする。
 4. 鉄筋は JIS S 5012 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に規定する熱間圧延異形棒鋼の種類 50 50 規格品とする。

- Ⅳ 調合
1. JIS A 5004 (レミクスコンクリート) に規定する A 種コンクリートとする。
 2. 所要スランプは 凝縮は 20mm、奥の底は 10mm とする。
 3. 所要空気量は 4.5% とする。
 4. コンクリートの調合強度 F_c は下記の両式を満足するように定める。

$$F_c \geq f_c + \gamma + \sigma \quad (\text{kg/cm}^2)$$

$$F_c \geq 0.7(f_c + \gamma) + \sigma \quad (\text{kg/cm}^2)$$

f_c : コンクリートの調合強度 (kg/cm²)
 f_c : コンクリートの設計基準強度 (kg/cm²)
 σ : コンクリート強度の標準偏差 (kg/cm²)
 γ : コンクリートの打込みから 28 日後までの期間の予想平均気温によるコンクリート強度の補正値 (kg/cm²)

5. 気温補正値 γ は下記による。

気温補正値 γ (kg/cm ²)
30
35
40

コンクリートの打設期日
10月5日 ~ 11月10日
11月6日 ~ 12月5日
12月6日 ~ 12月25日

解体工事方針
 ・解体範囲は建物全体とする。
 ・外構解体工事範囲は意匠図の配置図を参照とする。

6. 水セメント比は 70% 以下とする。
7. 単位セメント量は 250 kg/m³ 以上とする。

Ⅴ 寒中コンクリート 12月26日 ~ 2月15日にコンクリートを打設する場合は寒中コンクリートの規定を適用する。

Ⅴ 暑中コンクリート 7月6日 ~ 8月19日にコンクリートを打設する場合は暑中コンクリートの規定を適用する。

Ⅵ 試験

- Ⅵ-1 コンクリートの試験
- A. 本図表にないコンクリートの各種試験は、打込み場所・荷卸し場所ではないで採取した試料として下記の試験及び値を測定する。但し 打込み場所で採取することお困難な場合で 打込み場所と荷卸し場所との各試験の相違値が信頼できる資料又は試験により明らかなる場合は 荷卸し場所で採取してもよい。

スランプ試験・空気量試験・フロー値・試料温度・気温

- B. 構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度試験は、JASS 57-600 (構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度試験方法) の規定により行なう。
- C. 試験の回数は A 項の試験については 定間隔に 3 回以上、B 項の試験については 10 回以上とする。但し、右前と右後とにまたがり打設する場合は、各々 10 回以上とする。
- D. 供試体の採取数は、標準養生/適目 5 本、4 週目 5 本及び現場養生/適目 5 本とする。但し、型枠取りはすし及びきり取りはすし等で必要な場合は、各現場養生 5 本採取する。
- E. 現場養生は現場付近の日陰たよみか、等容器に水を満杯にし、その中で養生することを原則とする。

- F. B 項の試験で、1 週目圧縮強度試験の結果、4 週目圧縮強度が設計基準強度を割るおそれのある場合は、シム・ハンマーにより 1 週目・2 週目・4 週目と追跡検査を行なう。

Ⅵ-2 鉄筋のガス及び接合抜き取り試験

- A. 1 回の試験につき 1 本抜き取り引張試験を行なう。
- B. 試験の判定は母材で切取りをのみ合格とする。5 本のうち 3 本以上不合格の場合は不合格とする。1 本のみ不合格の場合は、この 10 本の試験片を抜き取り再試験を行なう。全数合格すれば合格とする。

鉄筋加工・配筋事項

配筋詳細図、配筋リスト、断面リスト等設計図に記載する事項は、下記の事項に従って加工を組立を行うこと。

鉄筋径記号 鉄筋径記号は特記なき場合は以下とする。 後は公称径とする。

ϕ - 9mm * - 16mm ○ - 22mm ◯ - 27mm
 \times - 13mm • - 19mm ⊙ - 25mm ⊗ - 32mm

I. 鉄筋の加工

表A. 鉄筋末端部の折り曲げの形状 d は公称径

鉄筋の使用箇所(折曲げ角度)	図	鉄筋の種類 (φ(径))	長さ
公称径16mm以上の鉄筋 柱主筋&梁主筋	180°	SR24	3d以上
		SD30, SD35	4d以上
公称径16mm以下の Sep.筋&Hoop筋	135°	SR24	3d以上
		SD30, SD35	4d以上
公称径16mm以下の 鉄筋(柱主筋&梁主筋) Sep.筋&Hoop筋以外	90°	SR24	3d以上
		SD30, SD35	4d以上

表B. 鉄筋中部部の折り曲げの形状 d は公称径

折り曲げ角度	図	鉄筋の種類 (φ(径))	長さ	
90°以下	1)	Sep.筋	3d以上	
		Hoop筋	4d以上	
		2) 27°筋	16mm以下	3d以上
		3) 45°筋	19mm以上	3d以上
90°以下	4)	その他の鉄筋	3d以上	
		その他の鉄筋	3d以上	

- 次の場合は鉄筋の末端部に表Aのフックを付す。
- 1) 直鋼フック
 - 2) 異径鉄筋以下の場合は
 - a. 柱又は梁(基礎梁を除く)の出頭部分の主筋
 - b. 上層の柱主筋の柱頭
 - c. 直交梁を穿通する梁(基礎梁を除く)下端主筋(2層目の主筋を除く)の継手部分(梁内(基礎梁に埋込梁を除く)の埋込部分)
 - d. 先端荷重を受ける片持梁(片持スラブ)の先端
 - e. Sep.筋&Hoop筋
 - f. 煙突に使用する鉄筋
 - g. 単独梁の支持端
 - h. その他設計図に記載してある箇所

II. 鉄筋の配筋

一般共通事項 $L_c = L_s + 5d$

鉄筋の種類	コンクリートの設計圧強度 f_c (N/mm ²)	定着の長さ(L)		重ね継手の長さ (L _s)
		一般 (L ₁)	下端筋 (L ₂)	
SR24	20以上	35dフック付	25dフック付	35dフック付
	20未満	45dフック付	25dフック付	45dフック付
SD30	20以上	35dフック付	25dフック付	35dフック付
	20未満	45dフック付	25dフック付	45dフック付
SD35	20以上	35dフック付	25dフック付	35dフック付
	20未満	45dフック付	25dフック付	45dフック付

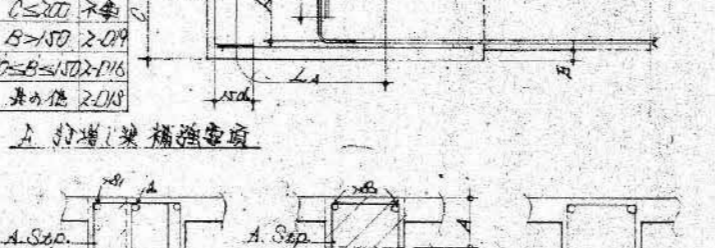
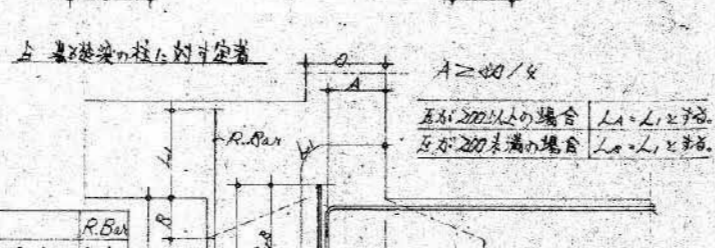
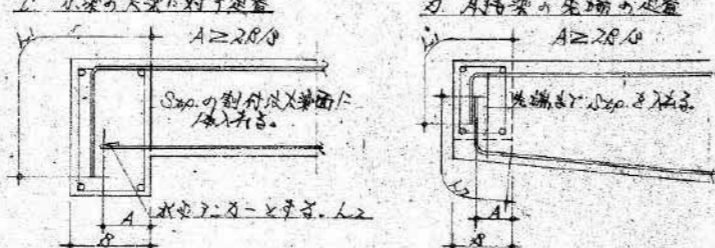
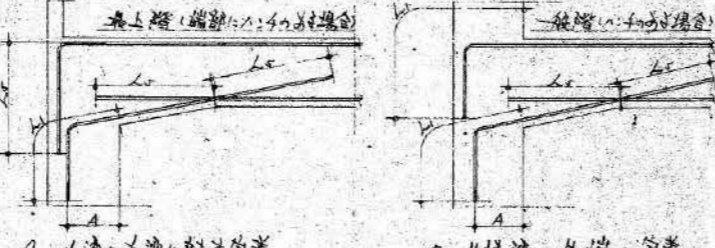
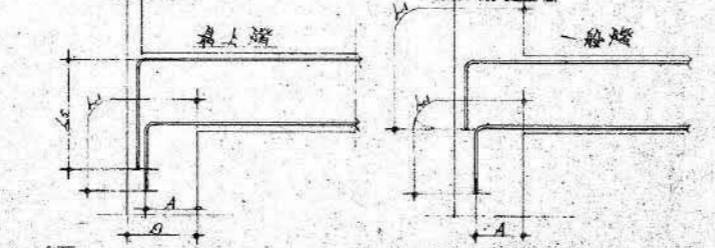
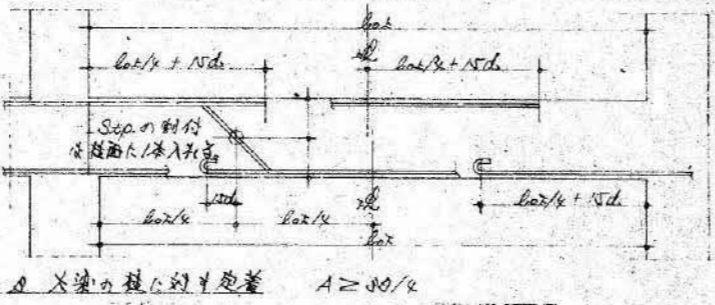
- 注) 1) 端部のフック定着長は重ね継手の長さには含まない。
 2) d は鉄筋の公称径とする。
 3) 直径が異なる鉄筋の重ね継手は、細径の鉄筋の公称径とする。

III. 梁関係

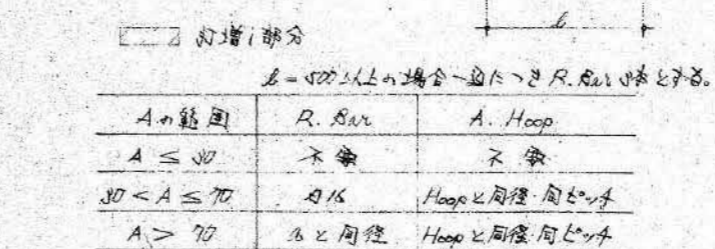
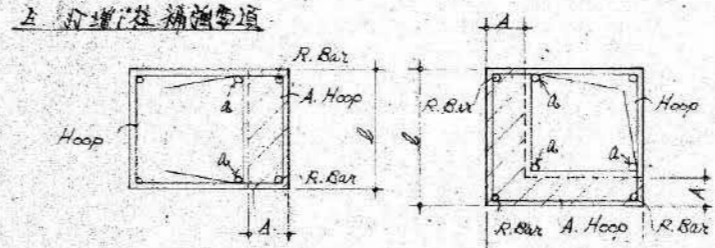
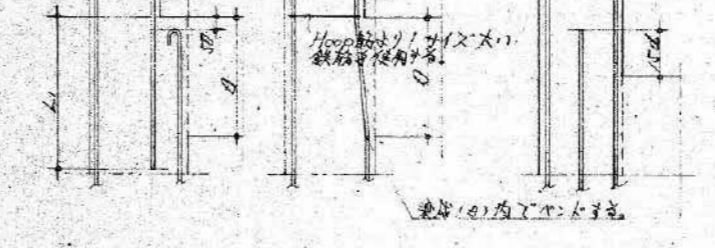
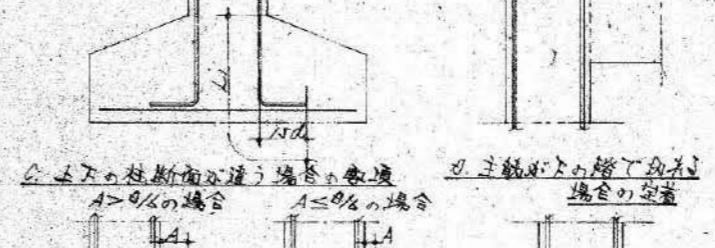
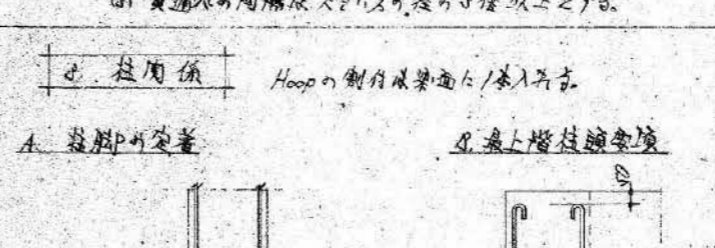
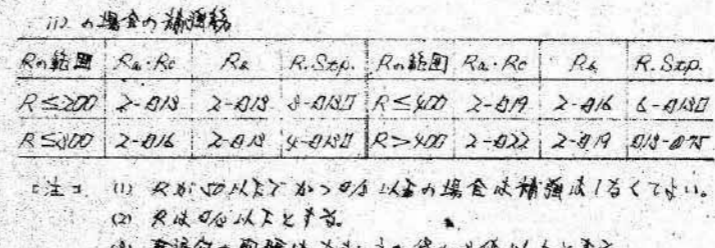
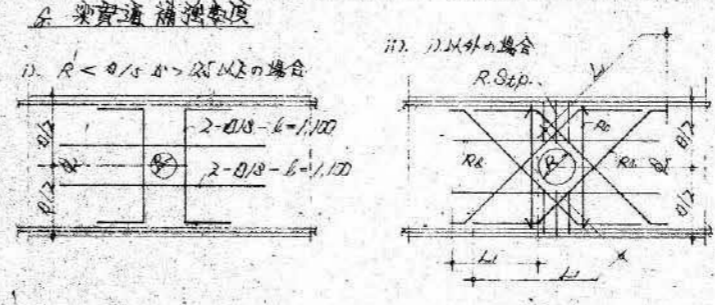
A. X梁の梁内配筋角度

基礎梁・小梁共にこの事項に準ずる。

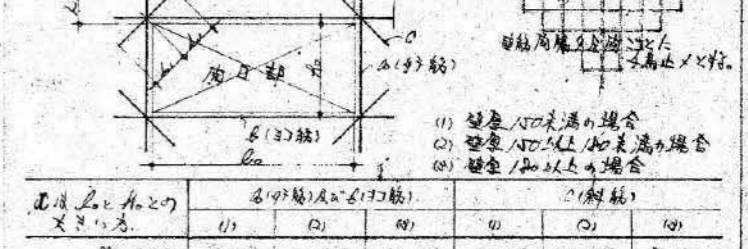
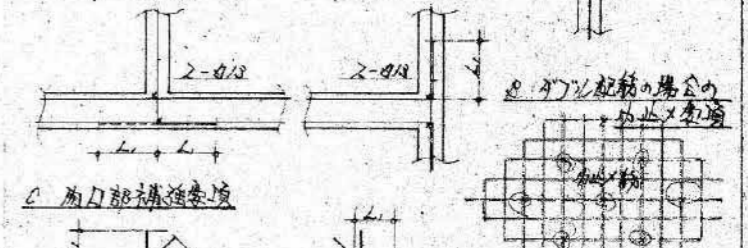
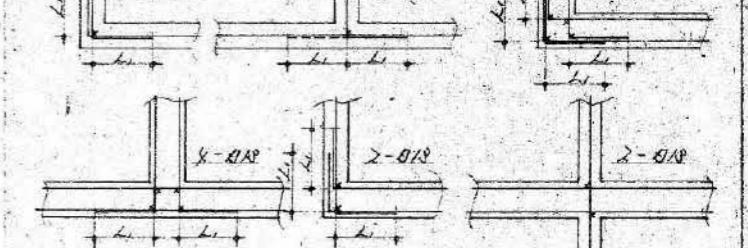
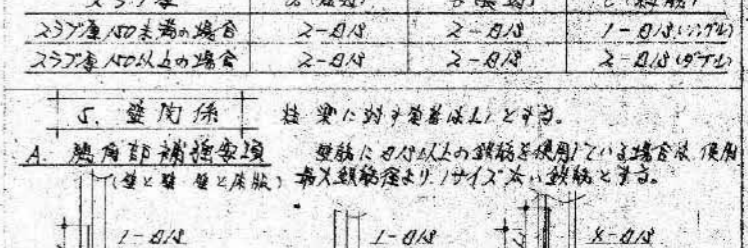
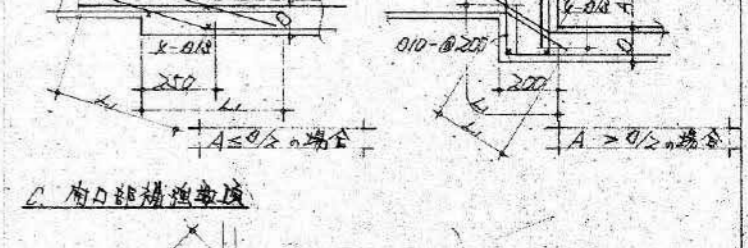
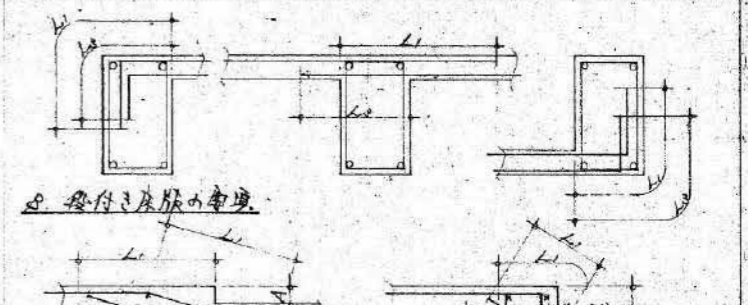
Aの範囲	aB	aC	aD	A.Sep.
$A \leq 30$	不要	不要	不要	不要
$30 < A \leq 100$	aB	aC	Cと同径	Sepと同径 同方向
$A > 100$	aと同径	Bと同径	Cと同径	dと同径 Sepと同径 同方向



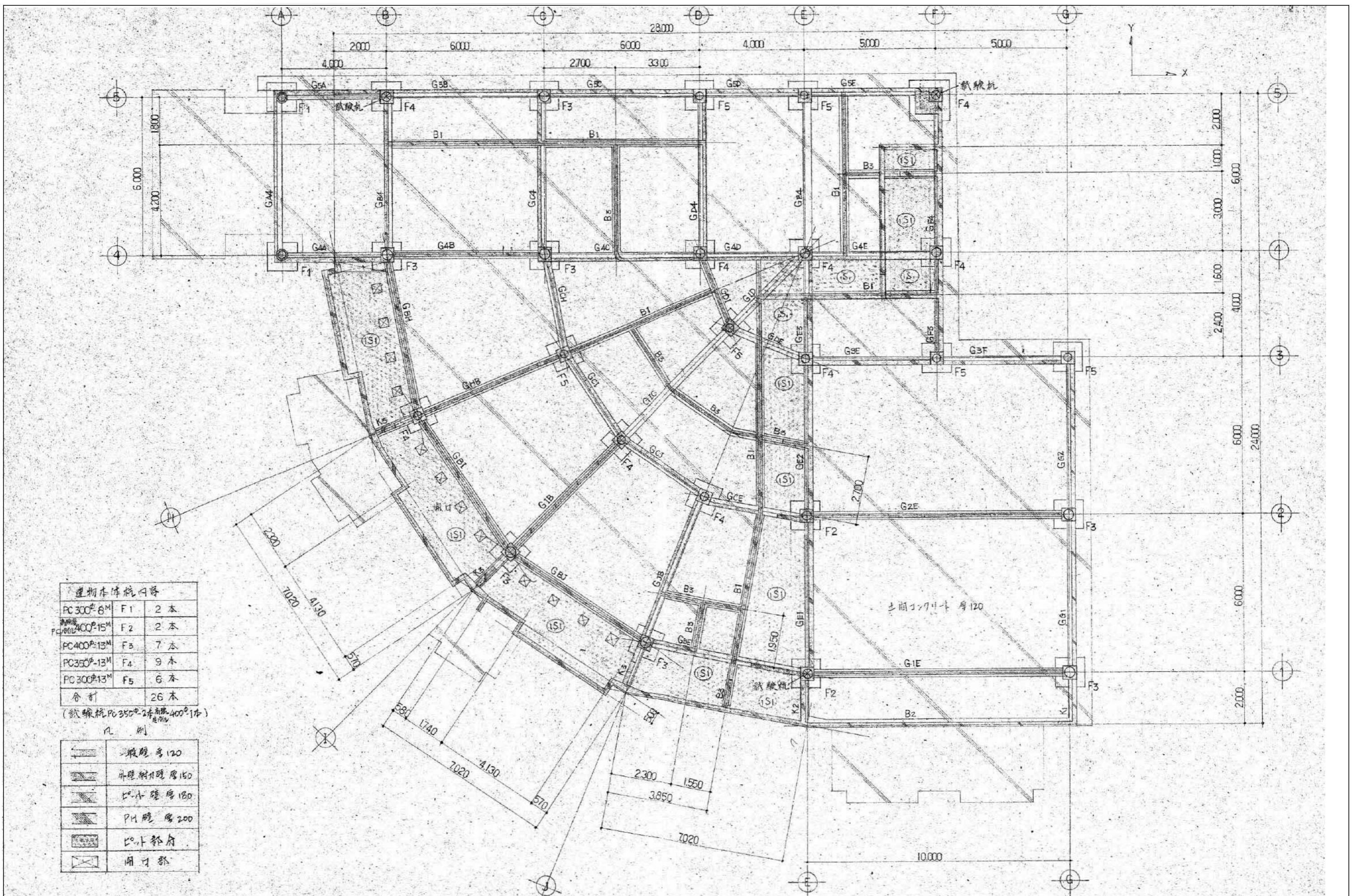
Aの範囲	aB	aC	aD	A.Sep.
$A \leq 30$	不要	不要	不要	不要
$30 < A \leq 100$	aB	aC	Cと同径	Sepと同径 同方向
$A > 100$	aと同径	Bと同径	Cと同径	dと同径 Sepと同径 同方向



Aの範囲	R.Bar	A.Hoop
$A \leq 30$	不要	不要
$30 < A \leq 70$	aB	Hoopと同径 同方向
$A > 70$	aと同径	Hoopと同径 同方向



Aの範囲	a(折筋)			c(折筋)		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
$C \leq 100$	1-aB	1-aC	2-aD	1-aB	1-aC	2-aD
$100 < C \leq 200$	1-aB	1-aC	2-aD	1-aB	1-aC	2-aD
$200 < C$	1-aB	1-aC	2-aD	1-aB	1-aC	2-aD



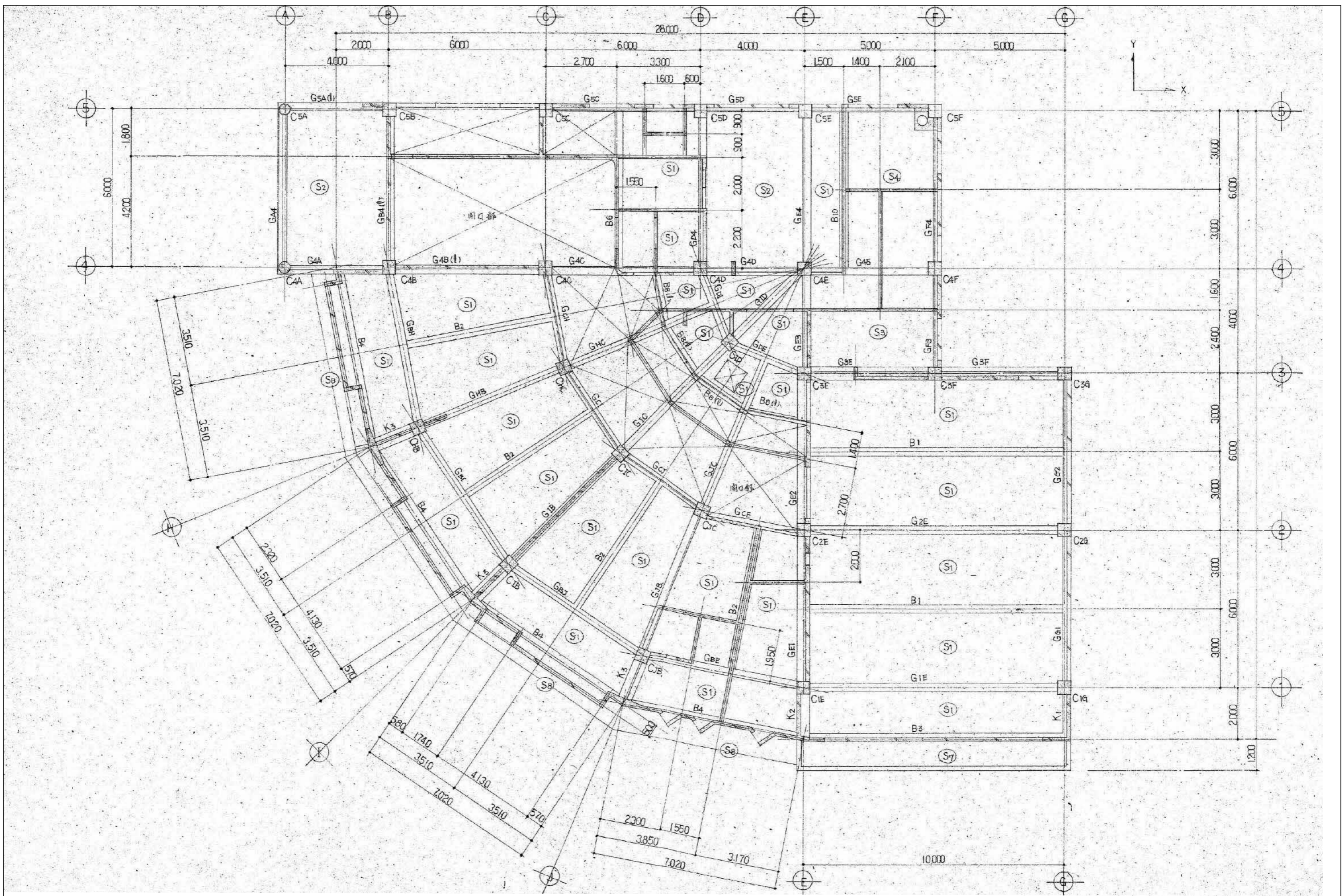
運物本体概内略

PC300 ^φ 6M	F1	2本
PC400 ^φ 15M	F2	2本
PC400 ^φ 13M	F3	7本
PC350 ^φ 13M	F4	9本
PC300 ^φ 13M	F5	6本
合計		26本

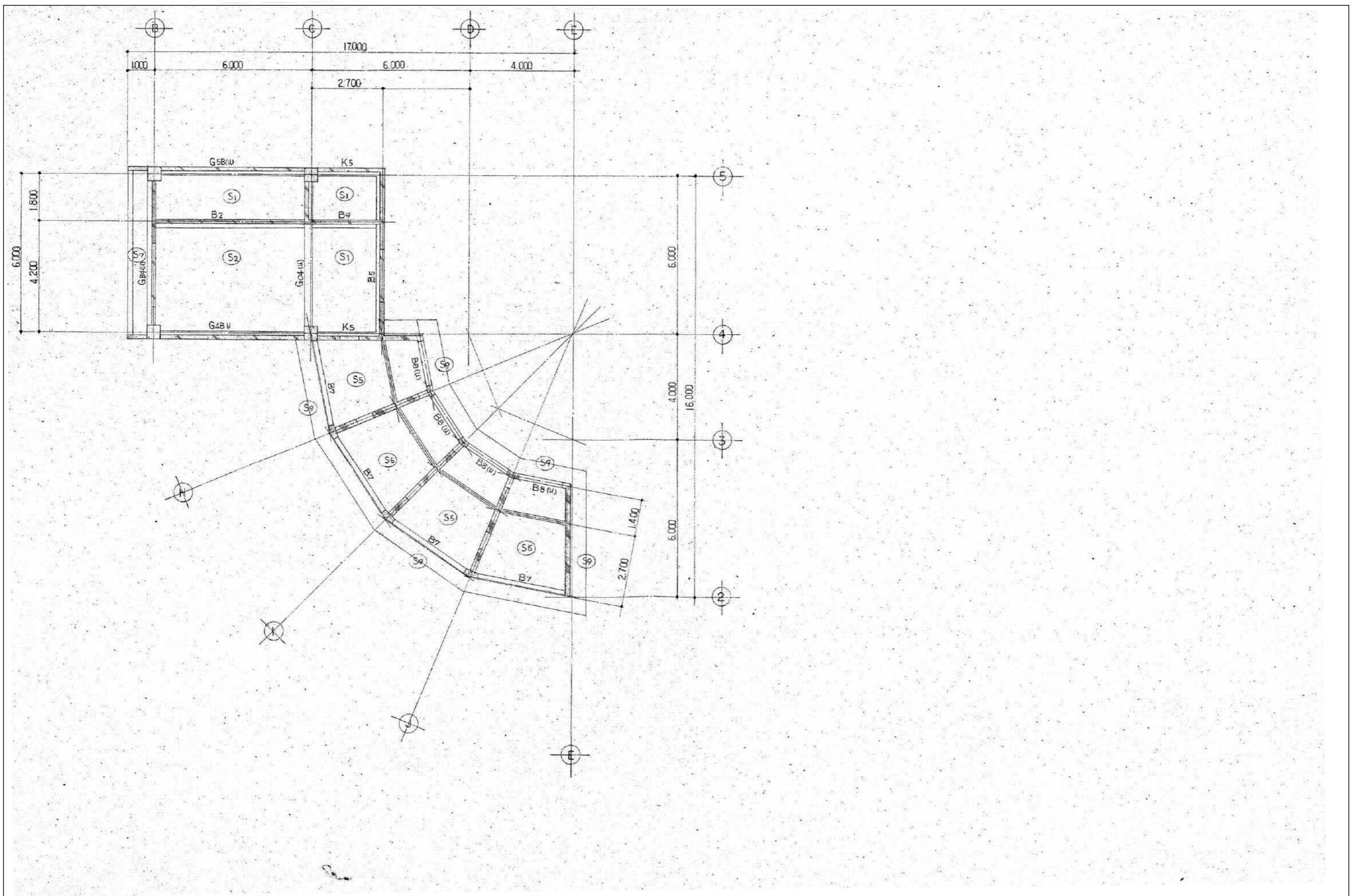
(鉄線杭PC350^φ2本間隔400^φ1本)

凡例

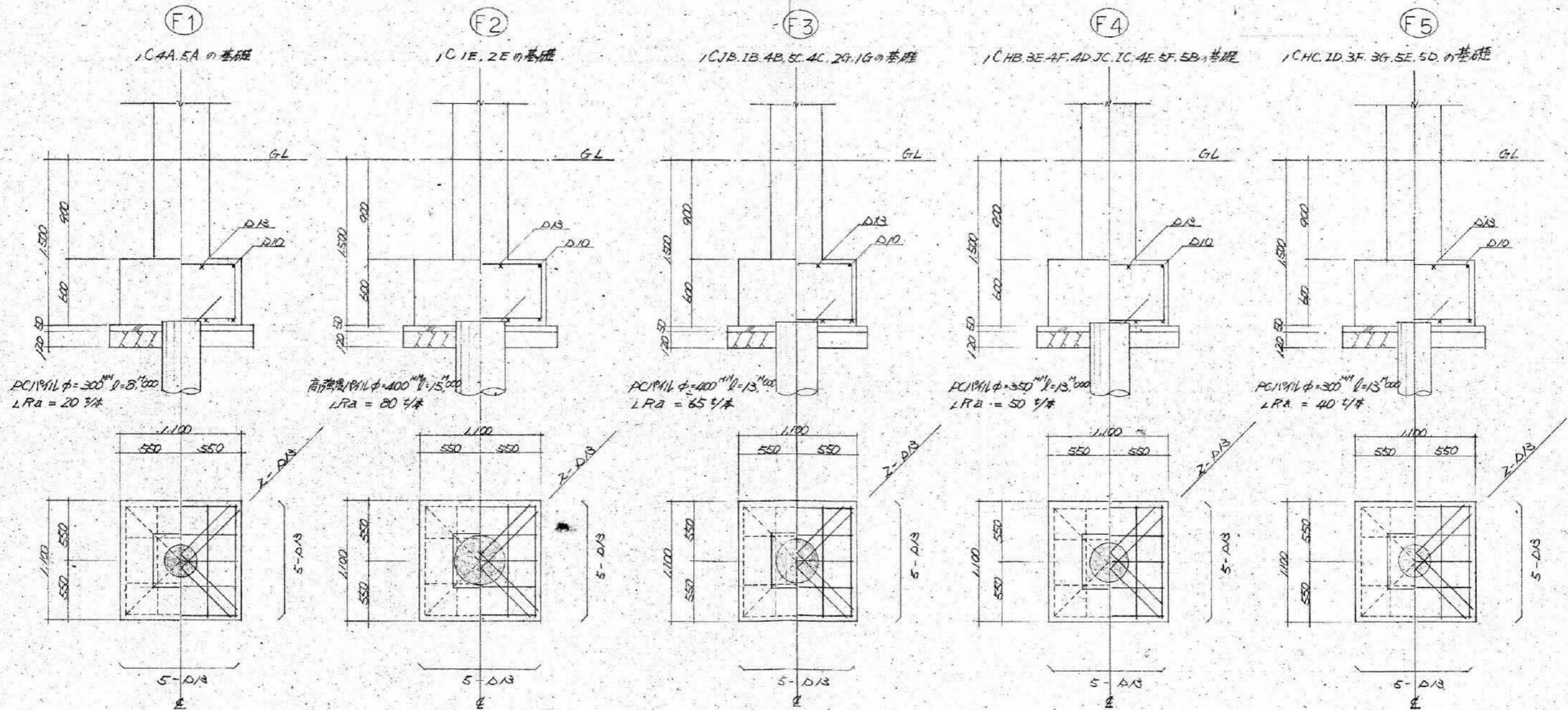
	一般壁厚120
	外壁耐圧壁厚150
	土間壁厚180
	PH壁厚200
	土中部分
	開口部



設計年月日 2026.3	工事名 旧北部保育所解体工事	図番 S-04
訂正	盤番 25057	棟題 R階(L)伏図
		縮尺 A1:1/100 A3:1/200



設計年月日	2026.3	工事名	旧北部保育所解体工事	図番	S-05
訂正		整理	25057	標題	R階(U)伏図
				縮尺	A1:1/100 A3:1/200

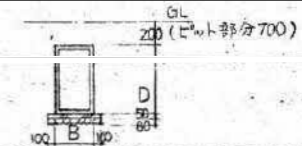


柱配筋リスト

符号	1C1G, 1E, 2G	1C1B, 1B, 4B, 5C, 4C, 2G, 1G	1C2E	3G, 3F, 4F, 5F, 3E, 4E, 5E 1C4D, 5D, 4C, 5C, 4B, 5B	1C4A, 5A
B x D	500 x 500	←	←	←	400 φ
断面					
主筋	10 - D22	8 - D22	12 - D22	8 - D22	6 - D16
Hoop	D10 - 100 @	←	←	←	←
D. Hoop	D10 - 600 @	←	←	←	←

F 梁 配筋リスト

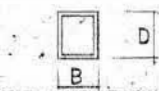
注記 1. 特記なし限り 縦筋 2-D13 とす。
2. 特記なし限り 幅×筋 D10-200 とす。



符号	FG1E, 2E	FG1G2, E1, E2, JB, IB, HB, IC, B4, BH, BI, BJ, BE, C4D4, E4, F4	FG5A, 4A, A4	FK1, 2, 3	FB1	FB2	FB3
B x D	300 x 800			300 x 600	300 x 800	300 x 600	300 x 600
断面位置	内E 中 外E	外内 中	全	全	外 中	外 中	全
断面							
上端主筋	3-D22 2-D22 3-D22	3-D22 2-D22	2-D22	2-D22	4-D22	2-D22 3-D22	2-D22
下端主筋	2-D22 3-D22 2-D22	2-D22 3-D22	2-D22	2-D22	4-D22	2-D22 4-D22	2-D22
Stp筋	D10 - 200 @				D10 - 200 @		

R 梁 配筋リスト

注記 1. 特記なし限り 縦筋 2-D13 とす。
2. 特記なし限り 幅×筋 D10-200 とす。

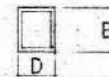


符号	RG1E	RGBE	RGBJ, BI, BH	RGB4 (U)	RG04	RG2E	RGCE
B x D	300 x 800			300 x 600	300 x 600	300 x 800	300 x 600
断面位置	内E 中 外E	内J 中 内E	端 中	端 中	外5 中 内4	内E 中 外E	内J 中 内E
断面							
上端主筋	4-D22 3-D22 3-D22	4-D22 2-D22 6-D22	4-D22 2-D22	3-D22 2-D22	3-D22 2-D22 4-D22	4-D22 4-D22 3-D22	3-D22 2-D22 4-D22
下端主筋	4-D22 4-D22 2-D22	2-D22 2-D22 6-D22	2-D22 3-D22	2-D22 3-D22	2-D22 3-D22 3-D22	4-D22 4-D22 2-D22	2-D22 2-D22 4-D22
Stp筋	D10 - 200 @					D10-150 @ D10-200 @ D10-150 @	D10 - 200 @

符号	RGJ, CI, F4, CH	RG DE, DI, D4, E4	RG3E, 3F	RGG1	RGG2	RGF3, ID	RGE1
B x D	300 x 600		300 x 600	300 x 800	300 x 800	300 x 500	500 x 800
断面位置	端 中	端 中	全	内1 中 内2	内2 中 外5	全	内1 中 内3
断面							
上端主筋	3-D22 2-D22	3-D22 2-D22	2-D22	4-D22 2-D22 4-D22	4-D22 2-D22 2-D22	2-D22	5-D25 2-D25 4-D25
下端主筋	2-D22 2-D22	2-D22 3-D22	2-D22	4-D22 3-D22 3-D22	3-D22 3-D22 2-D22	2-D22	5-D25 3-D25 2-D25
Stp筋	D10 - 200 @						D13 - 250 @

R 梁配筋リスト

注記 1. 特記の限り縦筋 2-D13 とする。
2. 巾止り筋 D10-600 とする。



符号	RGE2	RGE3	RGHB1B.JB	RGHC.1C.JC	RG4B(W).5B(W)	RG 4D .4B(I)	RG 4A,5A,5C 5D 5E
BxD	500 x 800	300 x 500	300 x 600	←	←	300 x 500	←
断面位置	内3 中 内2	端 中	外 中 内	全	外B 中 内C	中 端	中 端 4A,5Aの外A 4A,5Aの外B
断面							
上端主筋	4-D25 2-D25 3-D25	3-D22 2-D22	3-D35 2-D35 2-D35	2-D35	2-D22 2-D22 4-D22	2-D22 3-D22	2-D22 3-D22
下端主筋	2-D25 3-D25 2-D25	2-D22 2-D22	3-D35 2-D35 2-D35	2-D35	2-D22 2-D22 4-D22	2-D22 3-D22	2-D22 2-D22
Stp筋	D13 - 250 @	D10 - 200 @	←	D10-150 @	D10-200 @	←	←

符号	RG4C	RG4E.4B(I)	RK1	RK2	RK3	RK5	RG4A
BxD	300 x 500	←	300 x 800	500 x 800	500 x 600	300 x 600	300 x 500
断面位置	端 中	内E,4 中 外F,5	全	全	全	全	端 中
断面							
上端主筋	4-D22 2-D22	4-D22 2-D22 3-D22	4-D22	5-D25	5-D35	4-D22	2-D22 2-D22
下端主筋	3-D22 3-D22	3-D22 2-D22 2-D22	4-D22	5-D25	5-D35	4-D22	2-D22 3-D22
Stp筋	D10 - 200 @	←	←	D13 - 250 @ 巾止り筋 D13	D13-200 @ 巾止り筋 D13	D10 - 200 @	←

R 小梁配筋リスト

注記 1. 特記の限り縦筋 2-D13 とする。
2. 巾止り筋 D10-600 とする。



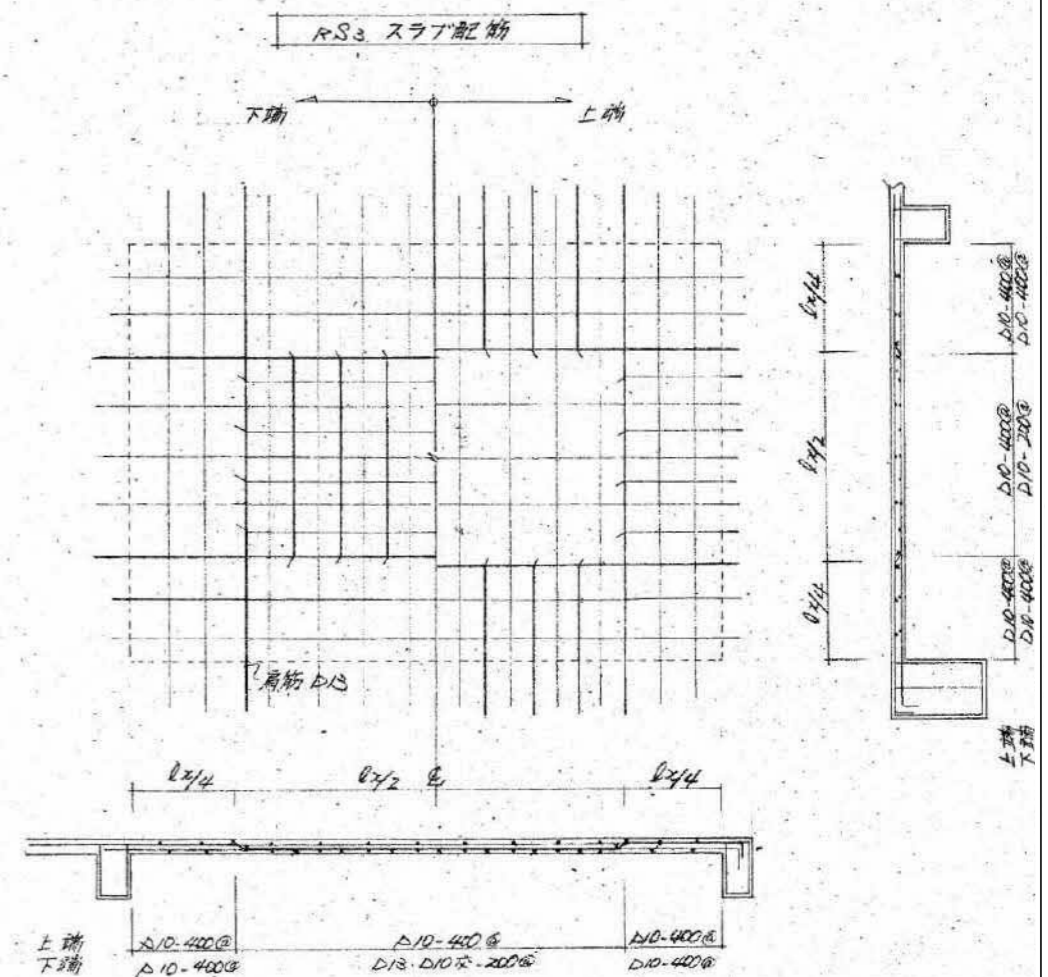
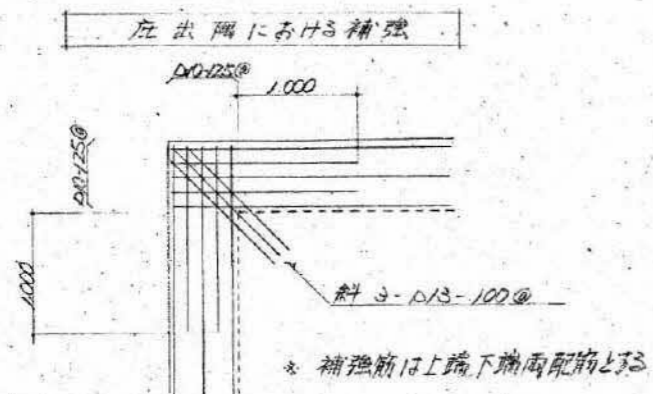
符号	RB1	RB2	RB3	RB4.6.10	RB5	RB7	RB8(W).8(I)	RB9
BxD	300 x 600	300 x 550	300 x 600	300 x 500	300 x 450	200 x 450	200 x 450	300 x 450
断面位置	端 中	端 中	端 中	端 中	端 中	全	全	全
断面								
上端主筋	3-D25 4-D25	2-D22 2-D22	3-D22 4-D22	2-D19 2-D19	2-D19 2-D19	2-D19	2-D16	2-D22
下端主筋	2-D25 4-D25	2-D22 3-D22	2-D22 4-D22	2-D19 3-D19	2-D19 3-D19	2-D19	2-D16	2-D19
Stp筋	D10 - 200 @	←	←	←	←	←	←	←

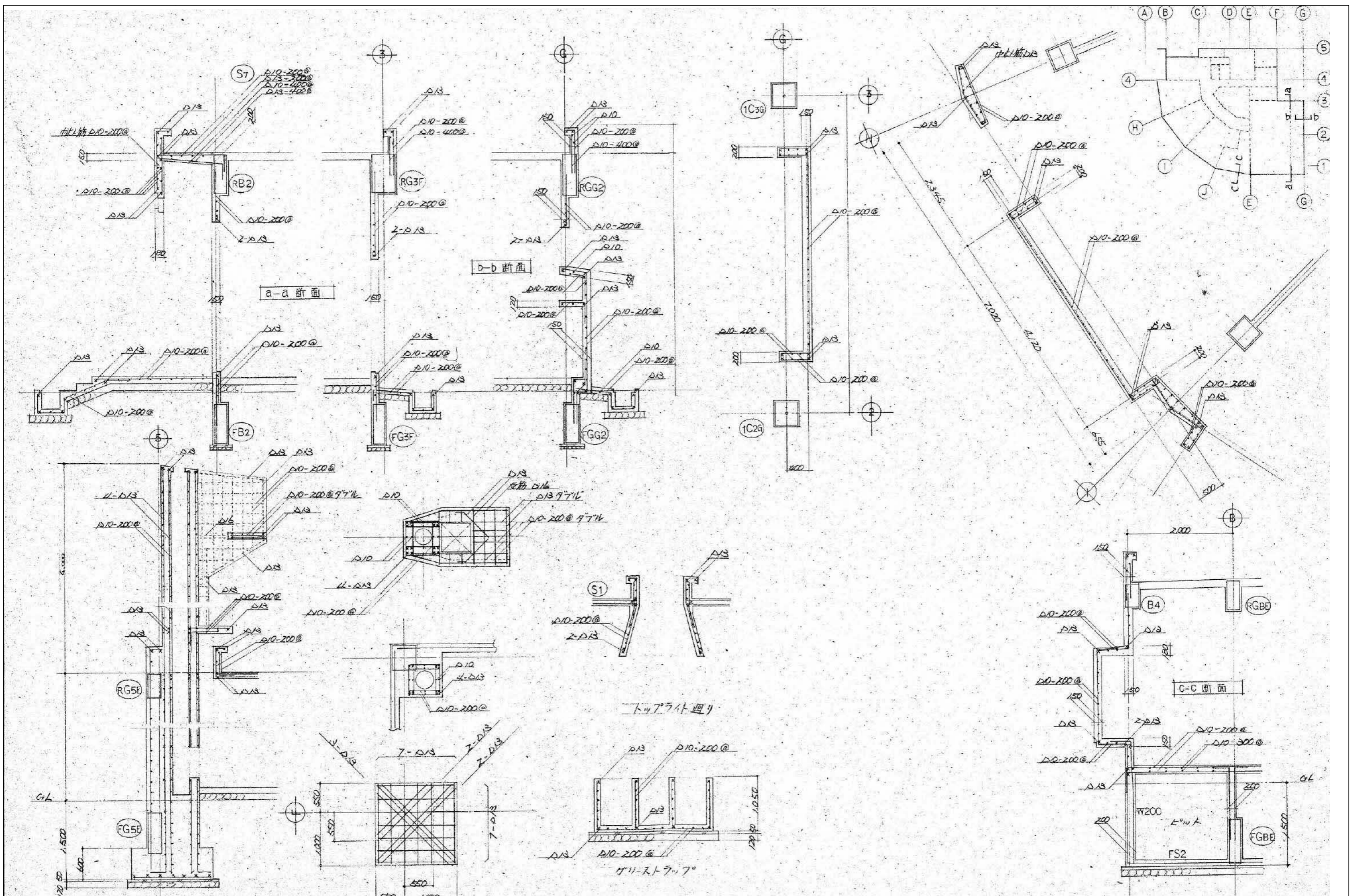
スラブ配筋リスト

スラブ符号	スラブ厚	断面位置	短辺方向			長辺方向		
			柱間帯		柱列帯	柱間帯		柱列帯
			端部	中央部		端部	中央部	
RS1	120	上	→	D10-400@	←	→	D10-600@	←
		下	→	D10-200@	←	→	D10-300@	←
RS2	120	上	D13-D10交互-175@	D10-300@	D10-300@	D10-200@	D10-400@	D10-400@
		下	D10-300@	D13-D10交互-175@	D10-300@	D10-400@	D10-200@	D10-400@
RS3	120	上	D13-D10交互-200@	D10-400@	D10-400@	D10-200@	D10-400@	D10-400@
		下	D10-400@	D13-D10交互-200@	D10-400@	D10-400@	D10-200@	D10-400@
RS4	120	上	D13-D10交互-200@	D10-400@	D10-400@	D10-250@	D10-500@	D10-500@
		下	D10-400@	D13-D10交互-200@	D10-400@	D10-500@	D10-250@	D10-500@
RS5	120	上	→	D10-200@	←	→	D10-250@	←
		下	→	D10-200@	←	→	D10-250@	←
RS7(底)	120	上	→	D13-200@	←	→	D10-200@	←
		下	→	D13-400@	←	→	D10-400@	←
RS8(底)	120	上	→	D13-D10交互-200@	←	→	D10-200@	←
		下	→	D10-300@	←	→	D10-400@	←
RS9(底)	120	上	→	D10-200@	←	→	D10-250@	←
		下	→	D10-400@	←	→	D10-500@	←
RS1 (E部ト)	150	上	→	D10-200@	←	→	D10-300@	←
		下	→	D10-200@	←	→	D10-300@	←
RS2 (E部ト下部)	150	上	→	D10-200@	←	→	D10-300@	←
		下	→	D10-200@	←	→	D10-300@	←
土間コンクリ	120		→	D10-200@	←	→	D10-200@	←
備考			・ 南口弧補強等は鉄筋配筋加工費項に入る					

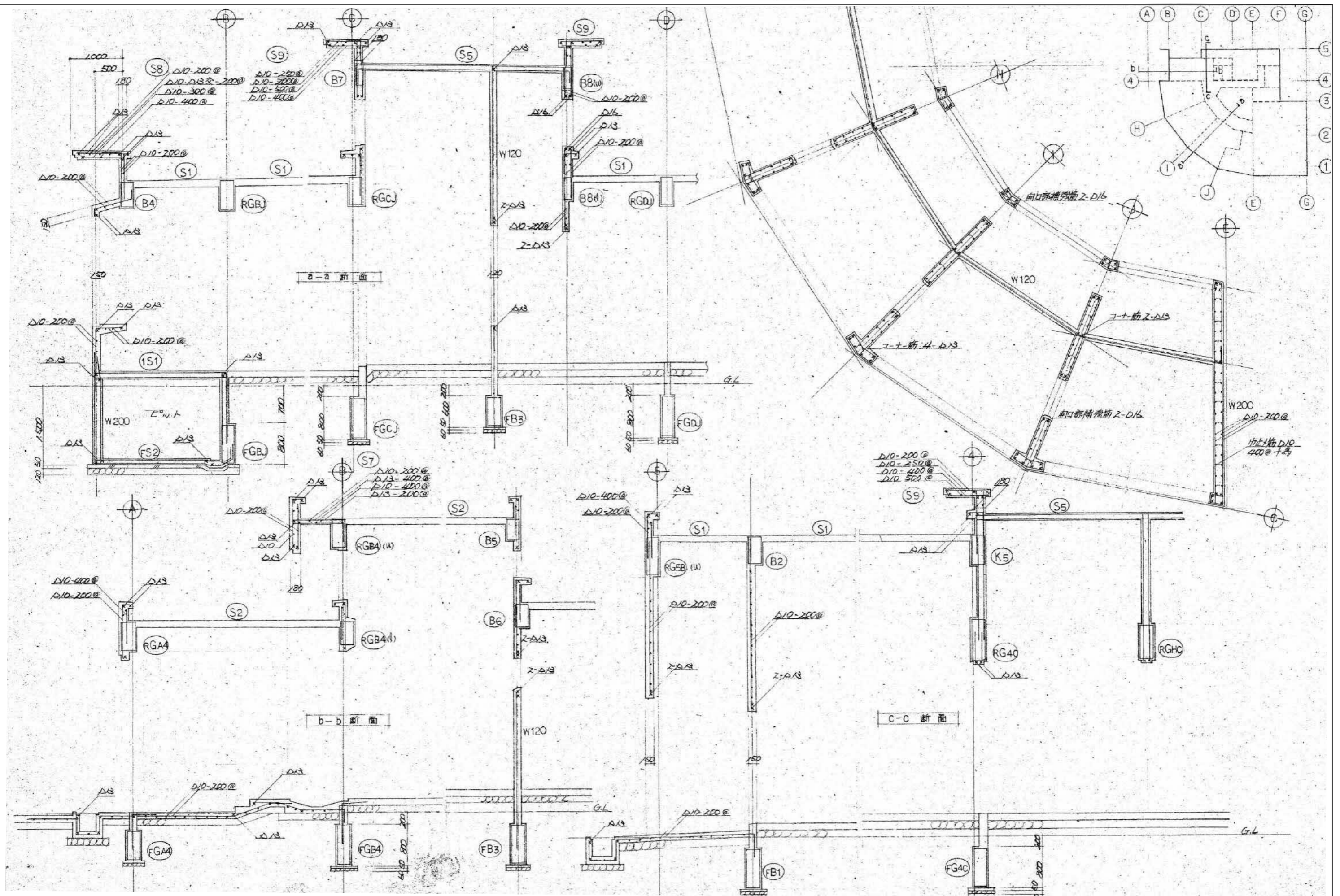
壁配筋リスト

壁厚	内壁	一般外壁内壁付程	ピット受壁	PH受壁
	120	150	180	200
断面				
47筋	D10-200@77L	D10-200@77L	D10-200@97L	D10-200@97L
30筋	↑	↑	↑	↑
南口弧補強筋	Z-D13	Z-D13	Z-D13	Z-D13
中上筋			D10-400@4筋	D10-400@4筋
備考				





設計年月日	2026.3	工事名	旧北部保育所解体工事		図番	S-10
訂正		盤番	25057	標題	各部配筋詳細図(1)	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100



設計年月日	2026.3	工事名	旧北部保育所解体工事		図番	S-11
訂正		整理	25057	標題	各部配筋詳細図(2)	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100